

「国語教育演習 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

1. 授業の目的

本授業は、受講生が、国語教育の問題やその本質を踏まえながら、授業の構想ができるようになることを念頭に置いて行ったものである。

対象は4年生である。授業は演習形成で展開した。以下、目標及び具体的な到達目標を挙げる。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について、三年生の段階よりもさらに深く考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持って的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

2. 授業の概要

第1回目は、授業の目的と内容の説明を行った。第2回目以降は、演習発表(一コマにつき一人、一人2回の発表)を行わせた。以下、授業の概要を、演習テーマとその内容をもって記す。なお、受講生は7名である。

○詩指導について

主に、「詩とは何か」「詩指導の意義は何か」について、西郷竹彦氏の認識論等を参考にしながら、自らの考えを整理していった。

○創作指導について

物語の創作指導の意義を、西尾実等の先行文

献を用いながら探っていった。さらに、学習指導要領における創作指導の位置づけと教科書教材の検討も行った。

○語彙指導について

児童の語彙を増やし、それを生活の中で活かすことができる語彙指導のあり方を探っていった。これまで述べられてきた語彙指導の意義や、教科書における指導を整理していった。

○意見文指導について

意見文指導について、大西道雄氏の論をもとに、「意見文とは何か」「意見文指導の問題点は何か」の検討を行いながら、自らの考えを整理していった。

○学習ワークシートについて

学習者の思考を促すためのワークシートの作り方を検討した。その先行実践を丁寧に見ていった。

○討論指導について

中学校における文学教材を用いた討論の実践論文(題目:『『走れメロス』で『討論』の授業を創る』)を取り上げ、討論指導のあり方を探っていった。その過程の中で、討論とディベートとの違いや、討論に必要とされる力の検討が行われた。

○読書指導について

大村はま氏の「どの本を買おうか」という授業実践を取り上げながら、読書指導における「選書指導」の重要性や、学習者の思考に即した読書指導のあり方を探っていった。

3. 授業の留意点

本授業は、基本的に学習者の問題意識に即して授業内容を決定していった。したがって、授業内容は最初から計画していたものではなく、結果的に導き出されたものである。

授業を展開するにあたっては、次のことに留意した。

○問題意識を探るための思考を具体的に支援すること

- 論文読解においては、主張点と論の展開の踏まえ方を示すこと
- 自分の考えを自らの言葉で述べさせること

4. 授業のアンケート

授業後に授業形式に関するアンケートを行った。以下、その記述をいくつか挙げる。

<それぞれが興味のある問題を取り上げながら、演習発表を行っていくという授業形式について>

- 4回生になって、個々の目的意識に応じて個人のテーマで発表するという方法は私は好きです。グループではどうしても「おとしどころ」を見つけなくてはいけないので集団作業よりもレベルが高いように思います。
- 個人で発表していくため、自分自身が何について考えていくのかを明確にしたり、自分の意見の形成・練り上げを行ったりする良い機会となりました。卒業論文を書いていくための手がかりともなりました。また、発表をして周りから質問や助言をもらうことで、自分の思考の浅いところや新たな視点に気づくことができました。
- 個々でテーマを見つけて発表するというのは、卒業研究のためにもなったのでとても勉強になりました。また、他の人の発表を聞くことで様々な視点から考えることができたので自分の研究以外のことも深めることができました。今まではグループでの発表が多かったのですが、この授業で一人でテーマ設定をし、一人でそのテーマについて深めていくことができよかったですと思います。なぜなら現場にでると、自分の足りないことや勉強不足なところに自分で気づき、自分で改善しなければならないからです。
- 自分の深めたい内容について調べることができたので意欲的に取り組むことができた。他の人が何に興味を持っているかを知ることができ、さらにそのことについて発表を聞いて深めることができた。発表し全員で議論することで、自分の理解度もわかるし、気づかなかったことや、新たな発見・視点が見つかった。
- それぞれ一人一人が興味を持ち関心のあるテーマとして、個々が発表していくということ授業展開はとても真剣に積極的に取り組みやすいものだったのではないかなと感じました。自分自身のテーマ設定や発表について振

り返って照らし合わせてみても同じようにいえると思います。テーマ設定という点で、もう少し詳しく踏み込んだ方がよかったかなと思いました。

- 現状から課題を見つけることは大切だと思うので自分でテーマを設定することができて良かった。興味・関心のある課題なので意欲的に取り組むことができたと思う。人数も少ないのでグループではなく個人で発表したのも、様々な分野について考える機会になったので良かった。
- 4回生になり、それぞれで考えを深めていきたいことが出てきてきたので、個々で考えていく形は良かったと思う。また、他の人の発表を聞くことで自分自身の考えも深まったし、自分の発表に対して他の人から意見をいただけたことも貴重な機会となり良かったと思う。

<授業の改善点について>

- 資料が多いときは前の週や前日までに配布できるようにした方が議論がスムーズに進んだかもしれないと思うところもありました。
- 議論があまり活発でなかったことが残念でした。その原因のひとつとして、資料を当日発表することが挙げられると思います。(略)各自が自分で資料を読み込んでから授業に来るというスタイルの方が自然なように思います。
- 難しいと思うけれどだれがいつ発表するのか、もう少し早めに決まっていればやりやすかったかなと思う。特に論文や実践を発表中に説明すると時間がかかってしまうので、事前に配布して読めるという形があれば効率が良かったかも知れないと思った。

5. まとめ

アンケートが示すように、それぞれが興味のある問題を取り上げながら演習発表を行っていくという授業形式に関しては、ほぼ問題はないと考える。ただし、発表資料の提示の仕方に一部問題が見られた。今後は、発表資料は前日までに受講生の手元に届くよう配慮していく必要があるだろう。

受講生の問題意識は高く、国語科教師としての基礎的な力量は形成できたと思われる。一部改善を加えながら、来年度以降も引き続きこの形式で授業を行っていきたい。